

## 第 48 回

# 新千歳空港の 24 時間運用に関する 苫小牧市地域協議会会議録

令和元年 8 月 22 日開催

第 48 回新千歳空港の 24 時間運用に関する苫小牧市地域協議会

・日時 令和元年 8 月 22 日 (木) 18:30~20:00

・場所 植苗ファミリーセンター

---

・議題

- (1) 住宅防音対策の進捗状況等について
  - (2) 地域振興対策の進捗状況等について
  - (3) 新千歳空港周辺地域振興基金について
  - (4) 平成 30 年度航空機騒音測定結果等について
  - (5) 新千歳空港における最近の動向について
  - (6) その他
- 

◎地域委員 出席者 (16 名)

◎北海道 (8 名)

◎ (公財) 新千歳空港周辺環境整備財団 (5 名)

◎苫小牧市 (7 名)

## 1. 開会

### ●苦小牧市（まちづくり推進室長） 皆さん、お晩でございます。

それでは、定刻となりましたので、ただいまから、第48回新千歳空港の24時間運用に関する苦小牧市地域協議会を開催いたします。

本日の協議会は、お手元に配付しております次第に基づきまして、進めさせていただきます。

## 2. 挨拶

### ●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、会議に先立ちまして、北海道の総合政策部長兼交通企画監からご挨拶を申し上げます。

### ●北海道（総合政策部長兼交通企画監） 開会に当たりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

苦小牧市地域協議会の皆様方におかれましては、お盆明けの大変お忙しい中、また、お仕事で大変お疲れの中、遅い時間帯に集まっていただきました。本当に御礼を申し上げます。

また、皆様方には、日頃から新千歳空港の24時間運用をはじめ、道の航空行政全般にわたりますご指導いただいておりますことに、この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。

新千歳空港を巡る昨今の状況は、後ほどまたご説明させていただきますけれども、新千歳空港は、昨年度、2,300万人の方々にご利用いただいたところでございます。

この中で、国際線の利用については、370万人と過去最高を記録したところでもございます。こうした中、先般、石井国土交通大臣が新千歳空港の昼の時間帯の発着枠を、来年の春から、現行で1時間当たり42回を50回に拡大する旨を発表したところでございます。今後、新千歳空港がさらに発展して、北海道の活性化、発展にさらに寄与していくことを期待しております。

新千歳空港を含みます道内7空港の一括民間委託でございますけれども、この8月に入ってからいろいろ新聞報道等でも動きが出てきております。

7月3日に国土交通省が北海道エアポートグループを優先交渉権者として選定した旨、公表いたしました。また、8月9日に、客観的評価の結果並びに優先交渉権者の提案概要を公表したところでございます。後ほど、担当より、その概要についても説明させていただきたいと考えている次第でございます。

遡ること、平成27年に皆様のご理解とご尽力によりまして合意を頂いた深夜早朝時間帯の発着枠については、今年の夏ダイヤでは1日最大16枠が利用されております。また、本年4月に、30枠では初めての深夜・早朝時間帯による国際定期便が就航しておりまして、皆様のご協力のもとに、発展する新千歳空港の原動力の一翼を担い、実現しつつあります。

一方で、地域の皆様方の安全・安心な生活環境の確保、地域の発展や振興のために皆様方とお約束をさせていただきました住宅防音対策、あるいは地域振興対策につきましては、道と苦小牧市、さらには財団としっかり連携しながら、現在、取組を進めているところでございます。

これも、後ほど、担当から現在の状況等を含めて、ご説明を申し上げますと考えているところでございます。

本日は、平成27年に枠拡大の合意を頂きましてから、これまでの対策の状況や新千歳空港の最近の状況について説明させていただく予定でございますけれども、皆様から忌憚のないご意見、

ご助言を賜れば幸いです。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

- 苦小牧市（まちづくり推進室長） 続きまして、苦小牧市の副市長からご挨拶を申し上げます。
- 苦小牧市（副市長） 皆さん、お晩でございます。

本日は、大変お忙しい中、また、夜分にもかかわらずご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、地域協議会委員の皆様におかれましては、新千歳空港の24時間運用に関しまして、常日頃からご理解とご協力を頂いておりますことに対して、厚く御礼を申し上げます。

さて、新千歳空港における深夜・早朝発着枠につきましては、ただいま総合政策部長からもお話がございましたが、国内、国際の各エアラインにおきまして枠の活用が順調に進んでおり、徐々に浸透してきていると認識しております。

これに伴いまして、皆様とお約束をさせていただきました住宅防音対策と地域振興対策につきましては、市といたしましても、現在、北海道や新千歳空港周辺環境整備財団さんと連携しながら事業を進めているところでございますが、これからも皆様のご意見などを伺いながら、スピード感を持って着実に実施してまいりたいと考えているところでございます。

改めまして、委員の皆様には、地域協議会の開催に対します御礼と協議へのご協力を心からお願いを申し上げます。簡単ではございますが、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3. 地域世話人の選出

- 苦小牧市（まちづくり推進室長） 次に、次第3の地域世話人の選出についてでございます。

協議会運営要領では、地域委員の互選により選出となっておりますが、いかがいたしましょうか。

- A委員 留任ということではないのですか。
- 苦小牧市（まちづくり推進室長） ただいま、留任というご意見がございましたが、皆様方、よろしいでしょうか。  
（「異議なし」と発言する者あり）

- 苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、異議なしということでございますので、3地区の世話人につきましては、植苗地区はB委員、沼ノ端地区はC委員、勇払地区はD委員に引き続きお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、この後につきましては、座って進めさせていただきます。

### 4. 議事

- 苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、4の議題に入らせていただきます。

議題（1）住宅防音対策の進捗状況等についてを議題といたします。

北海道から説明をお願いいたします。

- 北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 私から説明させていただきます。

申し訳ありませんが、座って説明させていただきます。

資料 1 をご覧ください。

住宅防音対策の進捗状況について、ご説明させていただきます。

道の住宅防音対策の区域は、苫小牧市におきまして、植苗地区及び沼ノ端地区の一部の約 400 戸が対象となっておりますことをあらかじめご了承ください。

最初に、1、平成 30 年度の実績についてでございますが、太枠で囲った苫小牧市分をご覧ください。

一番左の欄は、意向調査回答数となっております。これは、住宅防音工事を希望している方の数でございます。

次に、工事実績ですが、平成 29 年度までの累計が一般住宅は、件数、世帯数ともに 52、集合住宅は件数が 1、世帯数が 22、合計で件数が 53、世帯数が 74 となっております。

平成 30 年度の実績は、一般住宅が件数、世帯数ともに 23、集合住宅は件数が 1、世帯数が 10、合計で件数が 24、世帯数が 33 となっております。

このうち、前年度からの繰越分はなく、冬期施工分が一般住宅で件数、世帯数ともに 9 となっております。

また、今年度の実施計画についてでございますが、苫小牧市分の今年度の予定件数につきましては、一般住宅が、件数、世帯数ともに 16 となっております。

これまでの実績に今年度の実施計画数を加えた計を意向調査回答数で割った実施率、希望されている方のどこまで進んだかという実施率につきましては、一般住宅が、件数、世帯数ともに 32.4%、集合住宅が件数で 25.0%、世帯数で 39.5%、合計は件数で 32.2%、世帯数で 34%となっております。

次に、2 の令和元年度の現地調査についてでございますが、今年度の現地調査は、令和 2 年度に工事を予定している住宅に対して実施するものでございまして、今年度の予定件数は、一般住宅のみで 15 件となっております。

次に、2 ページの 3、高齢者優先枠の設定についてであります。工事の優先順位については、これまで、高齢者を優先している取扱いとはなりましたが、基本的には騒音の影響が大きい地域から工事を進めております。

しかしながら、これまで、工事に関する相談で、特に高齢者の早期施工の希望が非常に多く寄せられておきまして、本来の優先順位による工事を進めながらも、特に高齢の方を優先する新たな枠を年間 10 世帯分設定して、その枠の中で年齢順に工事を進めることとしたいと考えております。

詳しくは、3 ページの「住宅防音工事（高齢者優先枠）の募集」のチラシをご覧ください。

このチラシを、意向調査票を提出している方で、まだ現地調査の案内をしていない方に郵送したいと考えています。

上段の枠の中のアンダーライン部分ですが、85 歳以上の高齢者が 1 名以上居住している世帯で、早期の住宅防音工事を希望する方を募集しまして、年齢順に年間 10 世帯分を工事候補住宅とするものとしております。

年 10 世帯につきましては、目標である年間 200 世帯の 5%程度であれば、本来の優先順位での施工への影響は最小限で抑えられると考えたものでございます。

なお、今回の高齢者枠の募集は、最初ということもありまして、試行として取り組むものでございまして、応募状況などを見ながら、次年度以降の実施について、再度、検討していきたいと考えています。

募集時期は10月上旬を予定しております。

周知方法といたしましては、先ほど説明したとおり、このチラシを郵送することとしたいと考えています。

4ページに希望届出書も載せておりますが、この届出書を財団に持参、又は郵送いただくこととしています。

なお、町内会で高齢者優先枠に関するご不明な点などがあれば、直接、財団にお問い合わせいただくようにご説明していただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

住宅防音対策の進捗状況等に係る説明は、以上のとおりでございます。

- 苦小牧市（まちづくり推進室長） ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお受けしたいと思います。

何かございますでしょうか。

最後にその他の部分でまとめて質問されても構いませんが、よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

- 苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ないようでございますので、次に、議題（2）地域振興対策の進捗状況等についてを議題とします。

北海道から説明をお願いいたします。

- 北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、地域振興対策の進捗状況等についてご説明いたします。

5ページの資料2をご覧ください。

まず、道営住宅の整備でございますけれども、植苗地区の道営住宅の整備についてでございますが、植苗地区の星ヶ丘団地内に道営住宅を整備するものでございまして、概要につきましては、6ページに参考として整備場所を添付しておりますので、後ほどご覧いただければと思っております。

次に、進捗状況でございますが、1期目につきましては、本年3月に完成し、3月28日にはオープニングセレモニーを実施させていただきました。

8月現在、8戸全てに入居していただいている状況となっております。

また、2期目につきましても、年度内の完成を目指して、本年6月から造成工事・本体工事を進めているところでございます。

続きまして、道の駅関連施設の整備でございますが、本年3月に、道の駅ウトナイ湖の施設周辺に整備したウトナイ湖を臨む展望台が供用開始となっております。

続いて、冷暖房機器等の設置でございますが、冷暖房機器等設置につきましては、先ほど説明させていただきました住宅防音工事とセットで実施することを基本としてございまして、平成30年度までに31件実施し、令和元年度は8件の実施を予定しております。

続いて、住宅建設が可能となる区域拡大の検討でございますが、星ヶ丘地区につきまして、平成28年11月に地区計画の告示を行い、住宅の建築が可能な区域となったところでございます。

続きまして、沼ノ端地区の複合施設の整備でございますが、平成30年10月に供用開始となっております。

続きまして、文化交流施設の整備ですが、沼ノ端地区に新たな文化情報を発信する拠点施設といたしまして、仮称ではございますが、文化交流サロンを整備するものでございます。

現在、施設のあり方について、市と地域の皆様との間での協議が続けられておりまして、その協議が整い次第、基本・実施設計等に入ると伺っているところでございます。

最後に、勇払地区の総合福祉会館の整備でございますが、こちらにつきましては、平成29年12月に供用を開始しております。

地域振興対策の進捗状況等につきましてもの説明は、以上のとおりです。

●**苫小牧市（まちづくり推進室長）** ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお受けしたいと思っております。

何かございますでしょうか。

E委員、お願いします。

●**E委員** 道営住宅の件で、道営住宅が建つのはありがたいことなのですが、中に入っている人の話を聞くと、非常に不評が多いです。というのは、夏は暑くて窓を開けようと思うと、窓には網戸もないという状況ですので、今は猛暑も過ぎましたけれども、何とか対応してもらえないものかなと考えているのですが、いかがなものでしょうか。

●**北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）** 道営住宅につきましては、住宅に困窮する方に対して低廉な家賃で住宅を賃貸するということが目的としておりまして、家賃を低額に設定するために、生活に必要な最低限の設備を設置することとしております。

道におきましては、網戸等は、住宅に付帯する設備ではなく、個人の財産として取り扱ってございまして、道営住宅への網戸等の設置は全道的に行っていないということでございまして、入居者様のご負担の中で設置していただければと考えているところでございます。

●**苫小牧市（まちづくり推進室長）** F委員。

●**F委員** 今の答弁ですけれども、それであれば、入る前に網戸は個人負担だよと言わないで入れてしまって、ここの住宅は北海道の一般の住宅と違う形で、30枠を通してあげた見返りにももらったものでしょう。その答えを道庁は何も出していない。

これは、今、中央の会長が言うように、早急に、こんなに虫の多い、暑いのに、窓も開けられない、出入り口の戸も開けられないで、本当にこんなところに来なきゃよかったという苦情が出るのは当たり前だと思いますよ。道庁の役人さん、よく考えてちょうだい。

それから、苫小牧も、このことに対してもうちょっと、副市長さんもさっぱり植苗には、何を嫌ってるんだか、足を運ばないけれども、そういうことでは駄目でないかな。

以上です。約束して帰ってください。

●**苫小牧市（まちづくり推進室長）** 北海道からお願いします。

●**北海道（総合政策部長兼交通企画監）** お答え申し上げます。

今の網戸とか冷房装置などの設置については、ただいま説明をさせていただいたとおり、道の直接経費というのは現状では難しいという状況でございます。一方で、今、F委員あるいはE委員からいろいろと現状について話を頂いたところでございます。

- **F 委員** 難しいことを通すのが役人の力です。
- **北海道（総合政策部長兼交通企画監）** 今、F 委員からも重ねてお話しいただきましたので、この点については、どういう形でできるか、私どもと苫小牧市さんとよく相談させていただきながら、今後の対応について早急に検討させていただければと思っております。
- **F 委員** それから、来年の工事は、3LDK を 5 つにして、2LDK を 3 つにしてやってちょうだい。子どもを育てなきゃならんのに、こんな小さいものばかり建てられたって困る。もっと努力して。
- **苫小牧市（まちづくり推進室長）** 3LDK のお話を北海道からお願いいたします。
- **北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）** ご説明させていただきます。

2 期目につきましては、先ほどご説明したとおり、今年度中の完成を目指して、1 期目と同じ間取り、2LDK が 6 個、3LDK が 2 個で工事を進めさせていただいております。

3 期目につきましては、既に基本設計、実施設計を行ってございまして、今から 3LDK を増やすということは非常に難しい状況だと考えてございます。

また、仮に 3 期目で 3LDK を 5 戸にした場合は、敷地の面積や形状から 8 戸の整備というのが難しいということで、私どもの単純な試算ではあるのですが、2LDK が 1 戸しか整備できないのではないかと、今の土地の形状をそのままということであれば、そういうことになるということで、これまでお約束してきた合計 30 戸の整備ができないことになってしまうものですから、道といたしましては、現在の計画どおりの合計 30 戸の整備を進めてまいりたいというふうに考えてございます。
- **F 委員** そうであれば、子どもを育てようと思う、子どものいる人は入ってこない。だから、今年増やしてもらおうと思ったら設計に入っている、来年のことも設計に入っていると、そんな馬鹿な言い方あるかい。来年のことは、これから何ぼでも直せるでしょう。

そうしたら、どうしても 30 戸造るのが嫌であれば、本当は最初は 32 戸だったのが 30 戸で収まっているのだよ。前の副知事をお願いしたときは、8 戸入る建物を 4 つ建てることで 32 戸が約束されて、今度の 30 枠に、今度、平屋だから 30 になったという。

道庁は、頼むときはいろいろなことを言って、30 枠を何とか頼む、頼むと言うけれども、飛行機が飛んでいるのは、ここだけだよ。北海道の全域でこんなに飛んでいますか。馬鹿なことを言うのではないよ。そんなもの、答弁にならんよ。

だから、30 戸がどうしても嫌なら、減らしてもいいから 3LDK を来年は 5 戸建てて。それがないと、子どもがいる者は入ってこない。

以上です。
- **苫小牧市（まちづくり推進室長）** それでは、北海道から回答いたします。
- **北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）** 3 期目につきましては、先ほどの繰り返しになってしまうのですが、既に基本設計、実施設計を一度行っております。これを設計変更するということは、新たな費用、設計の再委託といえますか、仕直しとなって、かつ、その作業に時間がかかるということになってしましまして、その結果、今度は整備自体が、資料に付けましたような 4 年間の整備が遅れるおそれが非常に高いかなというふうに思っております。

これは札幌市の市営住宅の例ではございますが、一般的には、子育て世代の方は、永住仕様ではないものですから、2LDK の入居希望が多いというようなデータも出ておりまして、我々とし



ても、今現在、8戸満室で入居されているという状況からも、2LDKの需要はあるのではないかと考えておまして、何とか今の形で進めさせていただけないだろうかと考えているところでございます。

●F委員 このことに対して、植苗の人で他に誰か言う人はいないですか。このことに対して。

ここはね、特殊なところで、老人ホームなどはたくさん整備されていたけれども、定年者ばかり入っていて、子どものいる人は誰も入っていません。そんな理屈を通したって駄目なのだ。やはり、ここにふさわしいものを造って、これからIRでも何でも北海道に持ってくる、植苗にその施設ができる、そういったときには、この学生も増やしてあげたい。

それには、この地区では、今、課長が言っているような2LDKは、便利の悪いところの人は納得しても、ここは入ってこないよ。結果を見てごらん。入っていないから。そんな理屈を言っただって駄目だって。もう少し道庁は、30枠を通してもらった、それから、8年間も地域協議会をやらなかったのも全部もとに戻したのは誰だと思っている。全部戻してあげたその感謝も何もないでしょう。そんな馬鹿な話通らんよ。もう少し努力をして。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、北海道からお願いします。

●北海道（総合政策部長兼交通企画監） F委員には、いろいろとありがとうございます。

F委員の思いは十分理解しているつもりなのですが、現実的にはなかなかいろいろと課題があるようであります。後日、改めて、今日いただいたご意見を踏まえて、全体としてこの整備がどういう形になっていくのか、あるいは、どういう形で可能になるような道があるのかどうか、この辺を詳しく資料の形にして、1回、またご相談させていただければと思っております。

●F委員 来年のことは、まだまだ設計するのに手間がかかるなんて、課長、俺の前でそんなことを言うものではない。左遷するよ。そんなものは駄目だ。

できれば、知事に会いたいな。一変に、副知事3人も変えるような知事では役に立たない。知事に会わせてください。そうじゃなかったら、飛行機が飛べなくなるよ。植苗を粗末にしたら、飛行機が飛べなくなる。

早急に知事に会わせて。

●北海道（総合政策部長兼交通企画監） F委員がおっしゃるように、ここまで辿り着いたのは、本当に、F委員を含めて……

●F委員 俺は、軍人生活、大東亜戦争のときに2年8カ月も勤務してきて国に身を捧げた人間だから、言いたいことを言うよ。もうちょっと心を引き締めて答弁して。

副市長も心してよ。全然、植苗に顔を出さんよ、あんた。以上だ。

●北海道（総合政策部長兼交通企画監） F委員、また改めてご相談させていただきますので、よろしく願いいたします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、他に何かご質問のある方はおられますでしょうか。よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ないようでございますので、次に、(3)新千歳空港周辺地域振興基金についてを議題とします。

北海道から説明をお願いいたします。

- 北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、新千歳空港周辺地域振興基金についてご説明させていただきます。

7ページの資料3をご覧ください。

最初に、基金の概要についてでございますが、造成目標額30億円に対しまして、平成30年度末現在の造成済額は19億5,505万円となっております。

これまでも説明させていただいておりますが、今回の30枠合意を契機といたしまして、道内で事業活動をされている企業を中心に、約70社に対し訪問を行いまして、基金造成への協力依頼を行ってきた結果、現在のところ、16社から総額1億1,540万円の寄附の表明を頂いてございます。また、平成30年度に寄附金を納入いただいた企業は、そのうちの6社、4,395万円となっております。

ご寄附いただいた主な企業は、表のとおりでございます。

次に、基金造成に向けた取組でございますが、道といたしましては、昨年引き続き、道内で事業を展開してございます企業に協力をお願いしており、基金の確保に向け、今後も努力してまいります。

新千歳空港周辺地域振興基金に係る説明は、以上のとおりです。

- 苫小牧市（まちづくり推進室長） ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

- 苫小牧市（まちづくり推進室長） ないようでございますので、続きまして、(4)平成30年度航空機騒音測定結果等についてを議題といたします。

北海道から説明をお願いいたします。

- 北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、8ページの資料4-1をご覧ください。

航空機騒音の測定局は、苫小牧市内においては、北海道が設置した植苗局など9局と、苫小牧市が設置した琥珀荘局など5局の計14局がございます。

なお、表の右側に年間Lden値と民航Lden値を記載していますが、年間Lden値とは、千歳飛行場を離着陸する自衛隊機を含む全ての航空機騒音を集計した結果です。また、民航Lden値とは、民航機の騒音だけを識別・分離して測定することができないため、自衛隊機の離着陸のなかった日を民航機のみ航空機騒音を測定した日とみなして集計した結果です。

平成30年度の測定結果につきましては、太枠で囲った部分となります。

民航Lden値について、平成29年度と比較すると、自衛隊機の飛行日を除いた後の集計対象日数が異なることや、気象状況等によって算出値が変化する場合があることから、単純には比較できませんが、丹治沼において前年度の値を上回る結果となりましたが、数値としては1デシベルの微増であり、いずれにしても、全ての測定局で対策の目安となる環境基準を下回っているところではあります。

平成30年度の民航機の騒音測定結果に係る説明は、以上のとおりでございます。

続きまして、遅延便の深夜・早朝時間帯使用状況について説明いたします。

9ページの資料4-2をご覧ください。

この資料での遅延便は、30枠以外の便で出発ないし到着が予定より遅れたことにより、深夜・

早朝時間帯を使用した便のことになっています。

1、航空会社別便数についてですが、平成 28、29 年度はともに 423 便、平成 30 年度は過去 2 年間に比べ 74 便減少し、349 便となりました。

航空会社別では、ADO が 126 便と一番多く、前年よりも 34 便増加し、全体の 36% を占め、次いで、ANA、JAL の順となっています。

続いて、2、遅延理由別便数についてでございますが、平成 30 年度は天候による遅れが 147 便と一番多く、全体の 42% を占め、特に、下のグラフに示されているとおり、冬期間の 12 月から 2 月にかけては、悪天候や滑走路の除雪が追いつかないなどの理由により、多くの遅延が発生しています。

また、その他には機材不具合などの機材繰り運航乗務員の接続遅れなどが含まれています。

続いて、3、時間帯別便数についてでございますが、平成 28 年度から昨年度まで、22 時から 22 時 19 分が一番多く、平成 30 年度では 166 便と全体の約半数となる 48% を占めております。

また、22 時台の遅延については 295 便で全体の 85% を占めています。

遅延便の深夜・早朝時間帯使用状況に係る説明は、以上のとおりでございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（まちづくり推進室長） では、ないようでございますので、続きまして、議題（5）新千歳空港における最近の動向についてを議題といたします。

北海道から説明をお願いいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） まず、10 ページの資料 5-1 をご覧ください。

最初に、1 の深夜・早朝時間帯における国内定期便でございますが、表に記載のとおり、今年の夏ダイヤにおきましては、昨年と比較して 2 便減の 1 日最大 16 便の定期便が運航しています。

一方で、本年 4 月には、LCC のピーチアビエーションが新千歳ーソウル線が就航いたしました。30 枠以降では初めての深夜・早朝時間帯での国際定期便が就航しました。

次に、2 の深夜・早朝時間帯における臨時・チャーター便ですが、これまで、韓国やインドネシアなどのアジア諸国及びグアムへの臨時・チャーター便が運航され、近年は韓国とのチャーター便が堅調に推移していましたが、今年度においては、韓国の務安線の 7 便のみと大きく減少しました。

今回のチャーター便の減少につきまして、航空会社からは、先月、7 月に聞き取った状況ですが、韓国の都市部であるソウルなどでは、昨年の胆振東部地震の影響は小さかったのですが、地方部である務安や済州では地震の影響が長引いていたということを知っておりました。ただ、最近になりますと、日韓関係の状況もあって、チャーター便の回復に影響を与えていることも考えられますことから、私どもとしても状況を注視していきたいというふうに考えてございます。

いずれにいたしましても、航空会社を回っていると、深夜・早朝時間帯のメリットというのは、理解が徐々に浸透されていると受け止めておまして、深夜・早朝時間帯の発着枠が有効に活用されるよう、航空会社等に対してこれから働きかけていきたいと考えています。

新千歳空港における最近の動向に係る説明は、以上のとおりでございます。

続きまして、空港運営戦略推進室参事のほうから新千歳空港の民間委託の関係を説明いたします。

●北海道（空港運営戦略推進室参事） 改めまして、よろしくお願いたします。

私からは、空港の民間委託についての説明をさせていただくのですが、国土交通省が出しました資料を使わせていただきます。資料 5-2 という 1 枚ぺらの後ろに、国土交通省さんの資料 1 として選定結果、資料 2 としてカラーの提案概要を使ってご説明させていただきたいと思ます。座って説明させていただきます。

道内空港の運営の民間委託につきましては、冒頭、部長からのご挨拶にもございましたが、報道で皆様ご存じかと思ますが、先月 3 日に事業者が選定されまして、今月 9 日には選定結果と提案概要というものが公表されているところでございます。

まず、選定結果でございます。資料 5-2 にございますとおり、北海道空港株式会社が代表企業となっているのですが、北海道エアポートグループというところが優先交渉権者、いわゆる運営する事業者のグループということで選定されたところでございます。

この選定の審査に当たりましては、国が代表いたしまして有識者等で構成される審査委員会というものを設置いたしまして、その委員会におきまして、新千歳空港を含みます委託対象 7 空港の全ての提案内容を一体的に審査したところでございます。

その審査の経緯につきましては、資料 1 の 5 ページにあります。

審査は、第 1 次、第 2 次という 2 段階で行いまして、道内 7 空港の航空ネットワークの充実を図りまして、地域と連携した広域観光の振興を含めて、地域経済の活性化に資する事業者を総合的に判断し、選定したということでございます。

いただいた提案の審査結果につきましては、資料の 9 ページに、4 つのコンソーシアムの中から上位 3 つが選ばれました。その後、2 次審査がありまして、A、B、C の 3 つが 2 次審査に進んだのですが、C のコンソーシアムが辞退いたしまして、A と B の 2 つだけが 2 次審査に進みまして、11 ページ、12 ページに審査結果にあるとおり、北海道空港株式会社が入っている北海道エアポートグループが選ばれました。

詳細につきましては、後ほど、この資料をご参照いただければと思っております。

新千歳空港を含みます 7 空港の運営につきましては、今回選ばれた北海道エアポートグループの事業者さんが直接運営するものではございませんで、このコンソーシアムに入っている 17 社の企業があるのですが、この企業たちがお金と人を出し合いまして、新たに運営を専門的に行う会社を設立しまして、そこが運営を担う形になります。

次に、提案概要というカラー刷りのものをお配りしているところでございます。

提案の概要につきましては、カラー刷りの資料の 1 枚目でございますが、当初、10 年間で、関係者と連携した様々な取組を行っていくことで、道内全域での周遊観光流動というものを創り出しまして、現在、新千歳空港に集中しています国際ゲートウェイとしての機能を 7 空港全体で分散、拡大するという方向性ととも、新千歳空港をはじめ 7 空港全体で路線数や旅客数の拡大を図るということを目指しているという提案になっております。

では、新千歳空港でどのような事業を行っていくのかということにつきましては、カラー刷り

の資料を2枚めくっていただきまして、2枚目の裏面と3枚目の表裏の3ページにまとめられております。国内線・国際線のビル改修、ビジネスジェット専用ターミナル新設など、30年間で約2,950億円の設備投資が予定されている他、空港周辺の新たな交通体系の取組によりまして、周辺地域のまちづくりに貢献するということとか、環境対策・地域共生の専門部署を設置し、空港周辺地域への環境対策にも取り組むという提案がなされているところでございます。

なお、個別具体的な計画や取組につきましては、今後、会社を設立いたしまして、来年6月から新千歳空港の運営が開始されるのですけれども、それに合わせまして計画が策定されるということになっております。

なので、今の提案概要というのは、30年間でどういったものを目指して取り組んでいくというものが書かれております。今後の予定につきまして、現時点での想定、予定ではあるのですけれども、資料5-2の1枚目に戻っていただきたいと思っております。

下のほうに今後のスケジュール、予定と書いてありますが、10月頃に、国と新しく空港を運営する会社の間で実施契約が締結されます。その後、引継ぎ、あるいは手続等を行って、来年の1月にビルの運営が開始され、その後、来年の6月から新千歳空港自体の滑走路の運営が開始されます。この辺は、7空港一体で事業者さんが運営されるということもございまして、安全面への配慮から、全て一気に行うということではなくて、まずは千歳を安定的に稼働させ、その後、10月、年が明けて3月ということで、段階的に他の空港も開始していくことになっております。

道といたしましては、来年からの道内7空港一体の運営開始に向けまして、事業者さんが着実に実施できるように、共に推進させられるよう取り組んでいきたいと考えているところでございます。

説明は以上でございます。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 私から補足説明をさせていただきます。

これも毎回、地域協議会の度に皆様に説明させていただいているかと思っておりますが、民間委託ということになりますと、24時間運用の関連について言いますと、今やっています住宅防音対策費用の総額の一定額について、この運営権者にご負担していただくことになっておりますが、やる内容は変わりませんので、問題ございません。

また、これもこれまで説明しておりますけれども、30枠の拡大に伴って、現在進めております住宅防音対策や地域振興対策につきましても、民間委託後につきましても道及び苫小牧市、財団が連携して、責任を持って今までどおり進めさせていただきますので、これについての変更も特にございませぬ。よろしく願いいたします。

補足説明は以上のとおりでございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたでしょうか。

B委員、お願いします。

●B委員 前にもお聞きしたと思うのですが、この場でしっかりともう一度お話しいただきたいことがあります。

旧空港を管理していた会社が解散しまして、新しくなると。その中でも、駐車場を運営しております空整協というところが、地域に駐車場の果実を持って、振興策をしていただいております。

した。それに伴って、民間委託になってからこれが継続されるかどうかということがちょっと心配されておりますから、このことについてお話しいただきたい。

●**苫小牧市（まちづくり推進室長）** 北海道から回答をお願いします。

●**北海道（空港運営戦略推進室参事）** カラー刷りの資料をご覧いただきたいのですが、めくっていただきまして3ページ目になるのですが、安全・安心を最優先とした長期安定の空港運営とグレーの帯で下段にございます。その右下に、地域共生の承継と地域との信頼関係構築というものがございます。そのポツが3つあるのですが、その一番下に、現状の空港振興・環境整備支援機構等による地域共生事業を承継しということになっております。これは、空整協、今は支援機構という名前に変わったのですが、その行っていた事業というものは、新しい事業会社さんが承継をする、現状を最低限維持するということが募集の条件になっておりますので、そこは同様に行われるものというふうに認識をしております。

●**B委員** 分かりました。

道庁さんも、そう思うということですから、今後ともお力添えのほどをお願いしたいと思います。

●**苫小牧市（まちづくり推進室長）** 他にございますでしょうか。

新千歳空港における最近の動向について、他にご質問ある方はよろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●**苫小牧市（まちづくり推進室長）** それでは、ないようでございますので、最後に（6）その他を議題といたします。

北海道のほうから何かございますでしょうか。

●**北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）** ありません。

●**苫小牧市（まちづくり推進室長）** それでは、本日の議題は全て終了といたしますが、他に委員の皆様方からご意見を伺います。

G委員、お願いします。

●**G委員** この項目であえて質問しませんでしたけれども、今の議題全部に対して質問します。

まず最初の議題（1）、住宅防音です。

このやり方でいったら、植苗地区は何年で全部やろうとしているのですか。それが1つです。一遍に全部言います。

それから、地域振興策です。

課長は、この計画でいくと4年が3LDKになったら延びると言いましたけれども、1年間一切やらないで置いて、そういうことは当てはまらないと思いますよ。最初に32と提案したものを30にしたり、そこら辺もお答えいただきたいと思います。1年間は、一切、貢献策をやっていないので。

この基金運用です。

これは何年から基金30億円を積もうと思っていたのですか。これは、29年からやっと動き出して、道庁さんに非常に負担をかけていて、その金利運用で我々も地域のいろいろなことをやらせてもらっていますけれども、今、この30億円を積まない限りは、いつまでたっても積まれないのではないかと考えている一人です。ですから、いつ頃までに積極的にやろうとしているのか。

この1桁台のときから基金運用は始まったのかなと思っています。

それから、遅延便対策です。

この数字でいくと、遅延便は減っているように思うのですがけれども、昨今は、コースを逸脱して、全然違うところに飛んでいたり、それは、今、第2航空団の滑走路を使っているせいかもしれません。しかし、空の上だからといってもコースを逸脱して走っていいということではありません。

それと、苫小牧側からの着陸と千歳側の着陸は何%ですか、多分、苫小牧側からのほうが今は非常に多いのではないかと思います。離陸にはそんなに騒音はないのですが、着陸のときには、風向きによってはこの数字に現れなくてもかなりの音が聞こえてくると思っています。我々は航路直下に住んでいますから、それを実感しております。

それから、民営化です。

この7つですけれども、5つが国直轄ということで、要は会計、財布が同じと聞いています。あとの2つは、北海道が多少援助するというのを聞いています。

今、課長から、今後も地域の支援に対しては影響がないと言いましたけれども、事前には聞いていますが、この地域協議会の中に民営化の委員も入ってくるやに聞いています。ですから、それをいつ改定するのかという感じしております。

民営化に関して、苫小牧市にお聞きします。

地域との共生、連携ということですが、苫小牧は民営化に対してどのくらい準備されているのですか。民営化の一番の課題が二次交通等と言われてはいますが、苫小牧の取組はどういうふうになっているのでしょうか。

一番最後のご質問は、地域会議要領の6番目です。

今年度は、まだ8月ですけれども、去年、一昨年を見ても、年に2回という協議会規約の中で、この会議をやらず、文書で来たときもあります、流さない時期もあります。30枠を通すときには何回も開催してくれという要望に地域の皆さんも忙しい中を参加しました。しかし、決めたルールを守らない地域協議会要領であっては、どうなのかと思います。報告事項だっただけ変わる空港で、たくさんの課題があるのかと思っている一人でもあります。やらないのであれば、年1回にしたほうがいいのかと思っている一人です。

大体以上ですけれども、これにお答えいただきたいと思います。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それではまず、北海道からお願いします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） まず、住宅防音対策についてでございますが、住宅防音対策を今回始めるに当たっては、私どもは、住民票といった個人情報の調査ができないものですから、市販の地図等から住宅を拾っていく中で出た件数というのは、苫小牧市側の対象住宅が約400軒、千歳市側が約3,300軒です。

私どもの考え方としては、千歳市側と苫小牧市側の進捗状況が同じになるように進めてまいりたいというふうに考えてございまして、先ほど言いました3,300軒と400軒ということで、約9対1ということで、最初の年度当初の計画については9対1になるような形で進めていくと。

それと、進め方が何年かということは、実は今回の住宅防音につきましては期限を定めておりません。というのは、前回、6枠の際に7年間という期限を定めさせていただいたときに、例え

ばこういうケースがございまして、2年前に建てたばかりで、7年経っても9年しか経ってなくて、まだ改修したくないということで、結局、7年間という中で改修しなかった方がいまして、あまり期限を定めないでほしいと。今回も、平成27年10月31日が告示日でございまして、例えば、26年度中に家が完成した方が7年とかになってしまうと、8年やそこらで家を改築するのはちょっといただけないという趣旨のお話もございまして。

今回は、あくまでも年数は定めませんが、その方がやりたいときに言ってくださいということでした。ただ、先ほど説明したとおり、まずは意向調査を出していただいて、こういった形で改修したいですか、窓枠を変えるとか、窓はいじらないで、内窓を入れて音を小さくするようにするだとか、そういう工事をして欲しいとか、そういった調査を事前に出させていただいて、それで優先順位を決めさせていただきます。

実は、6枠のときと比べても業者さんの数も非常に減っておりまして、やりたいのだけれども、業者がちょっと待ってくれ、1年待ってくれ、2年待ってくれというようなケースもございまして、財団さんのほうで調整しながら進めさせていただいています。

ただ、私どもも、予算を腰だめという形で用意するわけにもいかないものですから、1年目に設計して、これはいけるよといった住宅について2年目に工事していただいて、そこに補助するという形をとっておりますので、1年目の設計を進めさせていただいているということです。先ほどの繰り返しになりますが、期限は特に定めてございません。

その中でもう1点ご説明させていただくと、実は、計画としては1対9なのですが、例えば今回のケースでもそうなのですが、冬期施工と言いまして、まだやれる予算があるので、冬場の工事でもいいからやりませんかといった場合には、千歳市と苫小牧市で9対1というやり方はしておりませんで、皆さん方にご連絡を差し上げて、その結果、見ていただければ分かりますとおり、千歳市と苫小牧市の割合は9対1になっていません。

財団とも話をしていたのは、苫小牧の方のほうで冬期施工、冬場であってもやってくれというニーズが多いといった結果もあって、この進捗状況と言いますか、苫小牧は約3割終わっていて、千歳はまだ25%までいっていないという状況になっているのかなというふうに考えてございます。

道営住宅につきましては、先ほど部長のほうからお話しさせていただきました。先ほどの部長のお話を私もしっかり聞きましたので、その辺の争点も含めて、至急、作業を進めていきたいと考えております。

また、基金運用でございまして、基金運用も平成6年に6枠の合意を頂いたときに、当時の合意書では3年間で30億円を積むというお話をさせていただいたのですが、その後、経済界との調整の中で、当時、平成6年というのはバブルがちょっとはじけて、いよいよ下り坂になったということもあって、経済界のほうから、3年で30億円は難しいというようなお話もございまして、5年間で何とかしたいと。その中で足りない部分については道のほうから当時は貸付けということで、財団に足りないお金を貸し付けて、それを運用していただいて基金運用益を出してきたということでございます。

その後、5年でも難しく、平成13年までに、実は、先ほど言いましたけれども、寄附表明をして、企業によっては5年間で払わせてくれという企業も多くございまして、例えば、表明いた



だいたのですけれども、その5年の間に倒産してしまった企業というところも、有名な銀行なんかもそうなのですけれども、そういったところもございまして、思ったように進まなかったということです。そして、平成14年以降、寄附の納入はなかったということがございまして、それ以降、地域協議会も、滑走路延長等の問題があつて、皆様との協議をしばらくやれていない時間がございまして、その後、皆様のご指摘を受けて始めさせていただいたということでございます。

私、個人的には、平成14年も実は担当で、基金集めをしていたのですけれども、やはり、当時と比べて、企業さんに理解はしていただけるのですけれども、寄附の金額が一桁違うかなと。やはり、時代がそうなっているのかなということで、当時は一代で築かれた社長さんとか豪放な方もいらっしゃったのですけれども、なかなか今はそういう方もいなくて、企業の方は理解していただいて、正直ベースに言うと、私が思った以上に企業さんは理解を頂けていると思うのですけれども、金額のほうはなかなか追いついてないということがあります。

繰り返しになってしまうのですけれども、一生懸命、企業歩きをしてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

あとは、遅延便のコース逸脱というお話でございましたが、こちらにつきましては、私どもはそういったお話を聞くたびに、C A Bさん等々にはお話を聞くのですが、コース逸脱は今ありませんという答弁しか返ってきてなくて、しっかりしたデータは私どももなかなかとることができないということです。

このお話を頂きましたので、早速、C A Bさんのほうにも確認していきたいと思っております。

また、離着陸のお話でさせていただきますと、今、基本的には新千歳空港というのは2本の滑走路ございまして、着陸用と離陸用ということで分けて使っております。例えば、今日の午前中がそうだと思うのですけれども、着陸のほうは千歳から入っております。午前中、離陸は苫小牧のほうからしていたということになっておりまして、離着陸ということでは、理屈上は、運用としてはほぼ半々になるのだらうと思います。離陸と着陸を同時にやるということは基本的にはやってないはずですので、離着陸ということにはなるのですが、航空機の騒音というのは、離陸の場合は、グッと上に上がるので、高い音が出て、その代わり時間が短いのです。着陸の場合は、ゆっくり降りてきて、ただ、失速してはいけないので、エンジンのパワーはどんどん上がっているのです。ですから、音が長い音が続くという特性がございます。

音の専門家の方が言うと、音の聞こえ方というのは、実は皆さんそれぞれちょっと違いがあつて、どの音を不快に感じるかというのも人によってちょっと違うのだということです。そうすると、離陸の音とか着陸の音の周波数の違いがあつて、こちらからのほうが非常に多いのではないかと感じる方が多いということもございます。

ただ、今、しっかりしたデータは手元にないのですが、先ほど申しましたように、離陸と着陸ということでは、それぞれの滑走路で分けて、お互い南と北でやっていますので、半々ということになってしまうのかなということでございます。

民間委託のことにつきましても、先ほどB委員からもお話がありまして、私の説明が足りなかったのですが、次回の地域協議会から、S P Cさんという運営権者の会社にもこちらに座っていただいて、ご説明をしていただくということになっておりますので、皆様のそういったご疑問に対してもお答えしていけるのではないかと考えております。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当局長） 年2回の地域協議会の開催についてですが、ご指摘を頂いたとおり、運営要領の第6で、協議会は原則2回というふうに明示されております。しかしながら、昨年度、第2回目に当たっては、地域世話人の方にお諮りすることもなく、本年3月に書面開催という形をとってしまったということをお大変遺憾に思っており、申し訳なく思っているところでございます。

過去の経緯があつて今回の事態になつてしまったということでございますけれども、今後、このようなことがないように、地域協議会につきましては、年2回の開催と明示してございますので、年2回を基本というふうに考えてございます。

今後、苫小牧市さんとの連携もしっかりとって事務を取り進めてまいりたいと考えてございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、苫小牧市に対するご質問ということで、新千歳空港の民間委託、道内7空港の民間委託に対する苫小牧の取組ということでお話がございました。

先ほどB委員からのご質問で北海道からもお答えしておりましたが、まず、私どもの一番求めた点というのは、航路下地域の安全対策を今のレベルから落とすことはないように、まずはこれをしっかり求めております。

それから、地域との共生ということで、今まで空港のB駐車場の収益によって、公園整備ですとか、学校の備品購入などを今までやっていただいておりますので、今後についても、しっかり今以上のレベルで環境対策をやってくれというお話をしておりました。それが今回の提案の中にもしっかり盛り込まれたので、私たちの意見はしっかり通つたのかなと考えております。

それから、この中では、苫小牧港との連携ということで、苫小牧にある港と空港をしっかりと連携していこうという提案もしていただいたところでございます。

その他、私たちの求めるものは、いろいろたくさんの課題を民間運営事業者と対話する際にはお話をしておりましたが、その際には、例えば観光の振興、二次交通の充実、道南方面への交通をしっかりとくれというお願ひもしておりましたが、これらについては今回の提案の中には含まれません。なぜかという、今回は、空港の民間委託で、空港をどう変えていくかという回答が出ておりますので、これらの課題については、今後、空港ごとの協議会が設立されます。SPCとか私たち周辺自治体、それから、観光サイドなども含めたところで、それぞれの新千歳空港に対する課題を話し合いながら解決していくこととなりますので、今後、私たちの提案した課題について、二次交通の充実なども出てくると思ひます。二次交通というのは、JRの問題など他に影響するお話もありますので、その辺は今後話し合いながら決めていきたいというところでございまして、こういった取組をしていたところでございます。

以上です。

G委員、お願ひします。

●G委員 私だけのためにかんりの時間を費やしていただいておりますので、これで最後にしますけれども、まず、認識がかなりずれているなと思うのが住宅防音対策です。何年というわけではないと言ひましたが、9対1というのは、いつ地域と取り決めたのですか。そういうことも我々は最初から、苫小牧側は、桝数、振興策、防音工事を一緒にやるということで、なるべく早くやってほしいという要望でした。

また、植苗地区は若い人ではなくて高齢者が多いのです。そんなに呑気にしていたら、言っ  
ては悪いですが、高齢者を優先する、また、障がい者も優先するということになっていま  
すけれども、冬も、たくさんの方が、いつになるのか、いつになるのかと待っている状況な  
のですよ。こんなことを言ったら悪いけれども、我々も、年をとって、あの世が近いとき  
になってから防音工事をやられたってどうしようもないわけなのです。だから、早急に  
やってもらいたいということですよ。

設計者がいないとか建築者がいないなんてことはないと思いますよ。そのシステムを  
変えるということですが、なぜ基金をと言ったかということ、それで人手が足りないとい  
うことで、財団の人間も去年の協議会で増やしたわけですから、それでも人が足りない  
のであれば、また増やすように提案して、瞬時にやる体制を整えてほしいなと思  
うのが1つであります。

たくさん言っていると時間かかってしまいますけれども、この基金は、公益財団法人  
にしました。そのときも非常にもめましたけれども、公益をやっと取ったわけですが  
けれども、これを運営していくということで公益にしたのです。そのときも、地域の  
みんなに努力を頂いて公益財団法人にしたつもりなのです。だから、各企業は、  
経済ですから、波があるのは分かります。けれども、道庁さんに負担してもら  
うというのが何とも心苦しいものだなと考えている一人です。あと10億、何  
とか頑張ってもらいたいと思います。

コース逸脱は、苫小牧市によく聞いてみてください。苫小牧市の上空を飛んで、  
本当は太平洋に出てからでないと進路変更はできない規則になっているはず  
です。ですから、それを、そうならないというようなことを管制が言ったか  
もしれませんが、我々は現実に見ているわけですから、外国エアラインは  
特にそうです。

それと、着陸が50と言うけれども、それも認識が全然ずれていると思  
います。腕のいいパイロットは向かい風のときに降りてこないのです。追  
い風でも、苫小牧側から滑走路が一番近いルートで降りてくるのですよ。  
深夜なんか、ほとんどそうです。僕の家の上から車輪を出して降りて  
くるのですからね。もう一度、よく調べてみてください。自動誘導措置  
をつけて、早来の上空からグッと回って、最短距離でも千歳の馬追  
までなんか今は行かないです。それも認識不足だなと思うのです。  
数は、それらで調べれば分かることだと思います。

要領の件は、できれば2回やってもらいたいと思います。これだけ課題  
のある空港で、たくさん変わりますからね。

それから、苫小牧市さんの回答です。全然認識がずれているのではない  
ですか。うちの市長は何と言っているか知っていますか。ダブルポート  
と言っているのですよ。それで、民営化になるのに、観光客がどう  
ということをやっていますが、もっと積極的に地域に関わらないで  
いたら、観光面でも全然遅れていってしまうと思いますよ、こんな  
ことをやっていたら。IRは別ですが、それもみんなリンクする  
のです。それなのに、今年に契約して、来年から民営化になっ  
ていく中で、こういう取組で本当にいいのですか。市長は違  
うことを言っていますよ。2つの港とリンクして、観光誘致から  
経済も誘致していくという方針ではないですか。

苫小牧市の考えは、大分ずれていると思いますよ。そこは、よく  
課題整理されたらいいと思いますよ。二次交通だって、積極  
的にやらないでいたら、置いていかれますよ。10年間  
でかなりのお金が出るということですからね。

もう1つ言っていないのは、第三ターミナルビルで、苫小牧側に来るのですよ。これにJRのことも入ってくると思うのです。駅から何かです。そのときに、どんな考えでいるのかと思って質問したのです。そこら辺は、苫小牧市はもう少し精査されたらいいのではないかと思います。以上です。

●**苫小牧市（まちづくり推進室長）** 回答はよろしいですか。

●**G委員** 回答は結構です。

●**苫小牧市（まちづくり推進室長）** それでは、F委員、お願いします。

●**F委員** 関連で言いますけれども、住宅防音は、千歳と苫小牧の比率は、同じ、こんなことではないのだ。30 枠を通したのは平成 27 年 3 月 19 日に通して、千歳は 8 月 20 日だから、それだけずれているから、同じではない。比率は同じだなんてことはないのではないですか。道庁って、そういうものかい。俺は、そうではないと思う。

高橋知事が私のところに来て相談されたときに、8 年間も地域協議会をしないものも全部するようにしてあげた。そして、あれだけ早く苫小牧は決めてあげた。そして、千歳は 8 月の 20 日ですよ。30 枠が通ったのは。違いますか。室長、違ったら違ったらって言って。

●**苫小牧市（まちづくり推進室長）** いえ、そうです。

●**F委員** それだけ我々は貢献してあげて、同じということはあるかい、その言い方。

それと、植苗、美沢に飛行機が何機、終戦後に墜落しているか分かっているかい。言ってごらん。それも全部、俺は覚えているよ。知らせてほしいのなら言うけれども、そういう近接の一番恐ろしい場所でも協力してあげているのだから、道営住宅のことも、一般の北海道の中身と違うのだと何回言っても分からんから、そこまで聞くのだ。

言ってごらん。何機墜落しているのか。調べて答えてよ。

自衛隊の飛行機が美沢の今の I R の上空で 2 機が接触して墜落しているし、清水では袋を引っ張ったまま墜落している。それから、美沢のコマザワ邸とアンドウ邸の間にジェットが墜落している。それから、苫小牧市有林に、あれだけの森林をなぎ倒して、それも自衛隊の飛行機が終戦後間もなく。その他もまだあるよ。よく調べて、この次に答えを出して。

だから、同じだなんて言葉は二度と使わないで。住宅を造るのに、北海道に同じ道営住宅の仕組みがあってできないのだというのと、ここは、飛行機のメッカで、みんなに迷惑をかけても協力して、30 枠でも何十枠でも、私は 6 枠からやってきたのだよ。あのときも、平成元年から 6 年かかってできないものを、6 年の 3 月 1 日に大筋合意に持っていった。28 日に千歳とやって、市議員が 3 人と地域の人が 2 人の 5 人反対で通せなかったのを、私が通してあげた。みんな、植苗の人たちが理解して、協力してくれたから通してあげられた。そういうことを棚に上げて、今の説明はないよ。そんなことでは駄目なのだ。何ぼ我々が道営住宅で困っている人をお願いしたって、こんな暑いのに防音窓も付けなければ何も付けなくて、人殺しをやっているようなものだ。これは駄目だな。

以上です。

●**苫小牧市（まちづくり推進室長）** B委員、どうぞ。

●**B委員** 1つだけ、基金のことで、課長から、道から貸付けという格好で今やっているという情報がありましたが、そうではないのです。それは過去の話で、今、財団の方がいらっしゃるでし

よう。1.5 でしたか。私も判を押していますからね。

残りの皆さんも、30 億円のうちの足りない 10 億円は、1.5%の利率で道が財団に入れて、我々に配ってくれているのです。これは、7、8 年前か、10 年前か、そのときに 20 億円の果実の中で、貸付けではなく、そういうふうにするということで約束しているのです。ただ、期限は定まっていないのです。それは、過去の人が知っていると思います。

ですから、今の国債の利率からいけば、割と得なのです。穴埋めだけはちゃんとしていただいているということだと思いますが、財団さん、どうですか。

●新千歳空港周辺環境整備財団（事務局長） 今お話しいただいたとおり、約 20 億円の運用益と、足りない 10 億円に対する 1.5%相当分を道から補助金としていただいて、その合わせたものをそれぞれの町内会に助成させていただいているところでございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） その他、ございますでしょうか。  
（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ありがとうございます。

それでは、たくさんのご意見をありがとうございました。

今後、しっかり北海道と苫小牧市が連携しまして、ご意見を踏まえて、しっかり取り組んでまいりたいと考えております。

## 5. 閉会

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、その他、質問がないようでございますので、協議会の閉会に当たり、総合政策部長兼交通企画監からご挨拶を申し上げます。

●北海道（総合政策部長兼交通企画監） 本日も、本当に遅い時間帯に、長時間にわたりご指導いただきまして、本当にありがとうございます。心からお礼申し上げたいと思います。

先ほど、F 委員をはじめ、これまでのこの協議会を含めて植苗地区その他の地区の皆様方の協力のもと、ご理解のもとにここまで来ているということを改めてご指摘いただきました。我々は、本当に常日頃、そういった皆様方のご協力を頂いたという事実をしっかりと胸にとどめて今後とも対応してまいりたいと考えておりますので、どうか皆様方は、今後ともご指導いただきますよう、重ねてお願い申し上げます、本日のお礼のご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 続きまして、副市長からご挨拶を申し上げます。

●苫小牧市（副市長） 今日、ご協議を頂きまして、ありがとうございます。

本日の協議結果を踏まえまして、ご報告を申し上げました住宅防音対策、地域振興対策につきましては、北海道、そして、財団さんと連携しながら、しっかりと進めてまいります。

また、市としましては、G 委員からもご指摘ございました観光振興も含め、民営化について市長との認識がずれていると言われないように、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。

最後になりますが、委員の皆様には、これまでも大変なご負担をおかけしてきたところでございます。今後とも引き続きご理解とご協力を心からお願いを申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、以上をもちまして、第 48 回新千歳空港の 24 時間運用に関する苦小牧市地域協議会を終了させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

以上